推 薦 図 書

学　科：　健康生活学部　子ども学科	氏　名：　石川 由香里
書　名：　わたしを離さないで	
著者・訳者：　カズオ・イシグロ著　土屋政雄訳	
出　版　：　早川書房　2008	

〈推　薦　文〉

物語は「介護人」である女性の子ども時代の回想から始まる。世間から隔絶された寄宿学校に親を知らない子どもたちが暮らしている。そこではけんかや仲間はずれ、嫉妬、恋など日常的な子どもの姿が描かれる。しかし、彼らは普通の人間ではなく、「提供」という特別な使命を運命づけられていることをある日、知らされる。その後、愛し合い、傷つけあい、紆余曲折を経て再会した相手の命をつなぐために、必死に行動する主人公。その末にたどり着いた諦観に満ちた淡々とした語りを通じ、物語は展開する。

自分にとって大切な誰かの命をつなぐために、他の誰かを犠牲にすることは許されるのか。それが人為的に「作られた」ものであれば、その行く末を決める権利もまた制作者の側にあると考えるのは、はたして正しいことであるのか。それが許されないことを知っているからこそ、相手を自分たちと同じ人ではないと思いこもうとする人間たちの弱さも描かれる。

いったい、人間であるとはどういうことなのか。この物語では身体のみならず、心を宿していることが人間性を規定することとして描かれているが、心は見えない。心の存在はいかにして証明可能なのかという哲学的な問題が、最終的に突き付けられる。